

【ポスター発表】

介護支援専門員の仕事に対する姿勢

—クワイエット・クイitting（静かな退職）に焦点をあてて—

○ 武庫川女子大学 増田 和高 (006310)

畑 亮輔 (北星学園大学・006695)

キーワード：クワイエット・クイitting、介護支援専門員、仕事に対する姿勢

1. 研究目的

高齢者人口の増加に伴い、介護保険サービスの利用者数も増加しており、2022年には過去最高の638万1700人が介護保険サービスを利用するに至っている。2040年には高齢者が全人口の35%を占めるようになることが推計される中、その利用者も同年にピークを迎える見込みが示されている。一方、そうした要介護等高齢者のニーズを把握し、適切な社会資源に結びつける業務を担う介護支援専門員（以下、CM）の人手不足が懸念されてきた。労働力人口が総じて減少する状況において、CMのバーンアウト（以下、BO）等による離職を減らし、継続的に業務を担えるよう、ワーク・エンゲイジメント（以下、WE）などの「仕事に対する姿勢」が近年注目を集めている。そうした中で、「クワイエット・クイitting：Quiet Quitting（以下QQ）」という考えが欧米を中心に注目を集めている。QQについて日本では、「静かな退職」「頑張りすぎない働き方」等と呼ばれ、働き方の一つとして取り上げられることも増えてきた。しかしながら、契約通りのタスクのみを遂行するその姿勢について否定的な意見も見られ、研究の蓄積が必要となっている。そこで、本研究ではCMの仕事の姿勢としてこれまで扱われてきた「BO」「ワーカホリズム（以下、WA）」「職務満足感（以下、JS）」「WE」と「QQ」の関連を明らかにし、CMの姿勢としてどのように捉えるべきか提言することを目的に研究を行った。

2. 研究の視点および方法

本研究ではA法人が運営する居宅介護支援事業所で勤務するCM100名を対象としたインターネット調査を実施した（調査実施時期は2024年2月）。質問項目はCMの基本属性および就労属性、事業所への愛着度に加え、先行研究をもとに「BO尺度（久保，2014）」「WA尺度（島津，2009）」「WE尺度（島津，2019）」「JS尺度（安達，1998の一部）」および「QQ尺度（Galanis，2023）」を用いて質問した。分析は「QQ尺度」の合計点を従属変数に、その他の変数を独立変数とする重回帰分析（強制投入法）を行った。

3. 倫理的配慮

調査を実施するにあたり、まずA法人の事業所の担当課に口頭にて調査協力の説明と依

頼を行い、承諾を得た。また、各調査依頼文およびWeb回答フォームには、調査協力の任意性、回答しない場合に不利益を受けないこと、結果は統計的に処理されて研究目的のみに用いられること、個人が特定されるデータや結果は公表しないこと、そして職場に個人の回答の有無や回答内容が伝わることはないことについて明記した。加えて、これらの対応方法についてA法人担当課への依頼の際に説明を行い、法人からの同意も得ている。本調査について北星学園大学の研究倫理審査を受け、承認を得た（23-研倫第55号）。

4. 研究結果

調査の結果、100件（回収率83.3%）の回答を得た。回答者の基本属性として、性別は「女性」が84.0%（84件）、年齢では「50歳代」がもっとも多く38.0%（38件）、次いで「40歳代」が29.0%（29件）であった。主任ケアマネジャーは「あり」が59.8%（58件）、役職の就任状況では「管理者等の役職に就いている」が13.1%（13件）であった。

重回帰分析を行い、QQに関連していた要因を確認したところ、「BO」（ $\beta = 0.464$, $p < 0.001$ ）、「WA」（ $\beta = -0.345$, $p < 0.01$ ）が有意であった（調整済み $R^2 = 0.226$ ）。その他の投入した変数については有意な関連は示されなかった。

5. 考察

本研究の結果より、QQはBOおよびWAと関連していることが明らかとなった。先行研究では、BOによってQQが導かれることが指摘されており、本研究の結果は先行研究の結果を支持する内容となった。他方で、WAは本来仕事に対して否定的な認知を想定した概念であり、QQとは正の関連が予測されたが、今回の結果では負の関連が示された。これは、WAに付随する仕事の活動量がQQによる仕事への関与に反応した結果と考えられよう。しかしながらWEやJSといった概念と有意な関連が示されなかったことは、今後の研究課題と言えるであろう。今後は、こうした仕事への姿勢に影響を及ぼす要因についても研究を進め、CMが離職に至らないような環境整備を進めて行く必要があるものと考えられる。

※本研究は科研費（基盤研究C）「介護支援専門員のワーク・エンゲイジメントとその関連要因に関する研究（22K01953）（代表研究者：畑亮輔）」の成果の一部である。

なお、本研究において開示すべきCOI関係にある企業等はないことを報告する。